参考資料集　その1

都市水害への対策方針 【とりまとめ】
参考資料集　その1　被害の概要

令和8年11月10日

国土交通省　水管理・国土保全局

目次

- 「令和８年８月千葉豪雨」による被害等の概要
- 「令和８年９月東海地方の大雨」による被害等の概要

気象状況

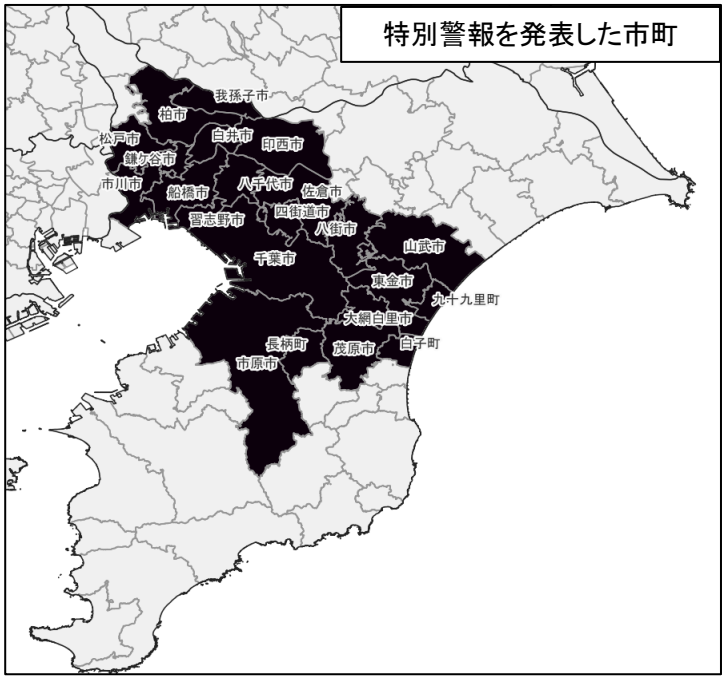
「令和8年8月千葉豪雨等を踏まえた内水氾濫対策検討会（事務局：内閣府（防災担当））」第1回資料を元に作成

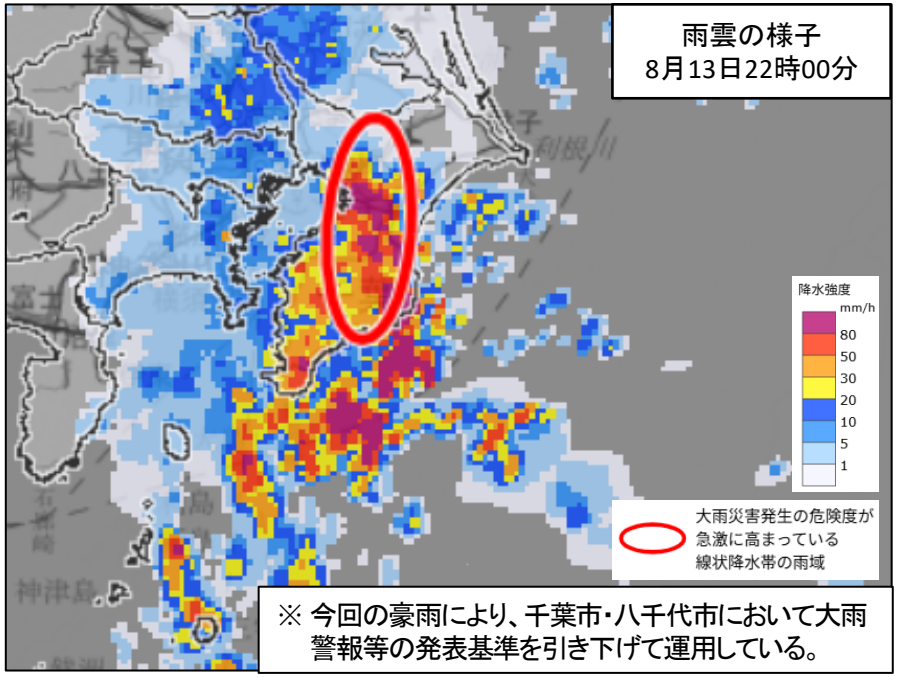
令和8年8月千葉豪雨

○千葉県では13日夕方以降、線状降水帯が発生し雨雲が長時間同じ所で停滞したため記録的な大雨となった所があり、特に千葉市では、平年の8月の総降水量の3倍以上となる360ミリを超える降水量を観測し、観測史上1位を更新した。

○この記録的な大雨により、千葉県には13日19時30分から14日05時15分にかけて、レベル5大雨特別警報やレベル5土砂災害特別警報を広い範囲に発表。

○13日は、この時期としては強い上空の寒気や、高気圧の縁を回り東から入る暖かく湿った空気により、雨雲が発達した。関東地方内陸部で日中の雨や雷雨により発生した下層の冷たい空気の影響で、この雨雲が西に動かず同じ地域に停滞したため、降水量が急激に増加した。



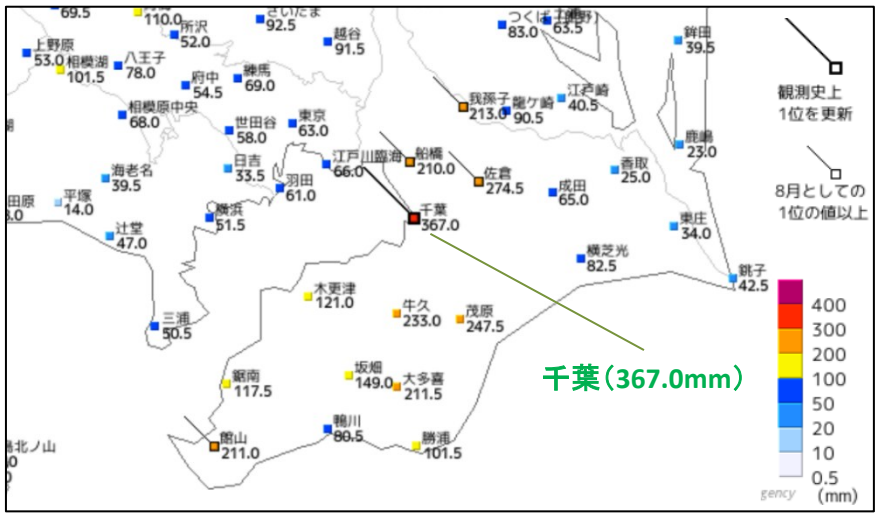


※ 今回の豪雨により、千葉市・八千代市において大雨警報等の発表基準を引き下げて運用している。

気象状況（降水量）

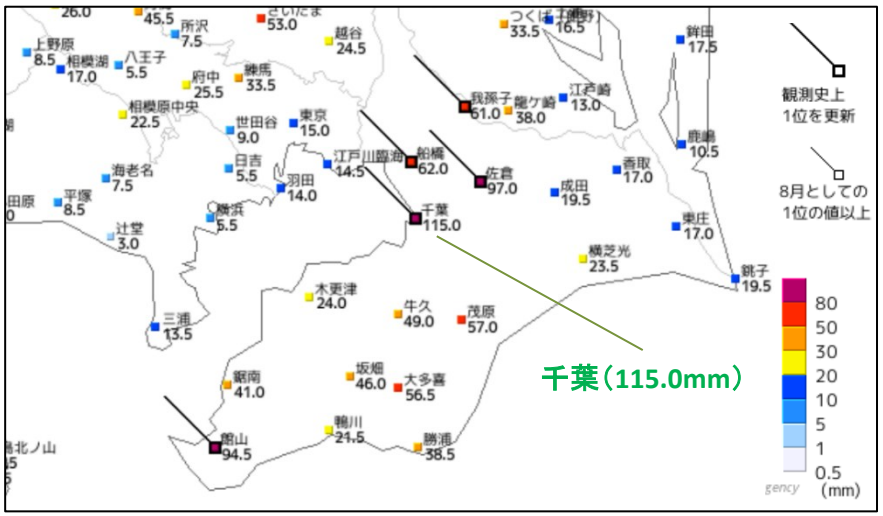
「令和8年8月千葉豪雨等を踏まえた内水氾濫対策検討会（事務局：内閣府（防災担当））」第1回資料を元に作成

【雨】期間内の24時間降水量最大値（8月13日00時～8月14日24時）



順位	都道府県	市町村	地点	観測値	
				mm	年月日 時分(まで)
1	千葉県	千葉市中央区	千葉（チバ）※1	367.0	2026/8/14 10:00
2	千葉県	佐倉市	佐倉（サクラ）※2	274.5	2026/8/14 16:40
3	千葉県	茂原市	茂原（モバラ）	247.5	2026/8/14 03:30
4	千葉県	市原市	牛久（ウシク）	233.0	2026/8/14 04:00
5	千葉県	我孫子市	我孫子（アビコ）※2	213.0	2026/8/14 10:20
6	千葉県	夷隅郡大多喜町	大多喜（オオタキ）	211.5	2026/8/14 03:50
7	千葉県	館山市	館山（タテヤマ）※2	211.0	2026/8/14 09:20
8	千葉県	船橋市	船橋（フナバシ）※2	210.0	2026/8/14 06:40
9	埼玉県	大里郡寄居町	寄居（ヨリイ）	199.5	2026/8/13 00:10
10	群馬県	高崎市	榛名山（ハルナサン）	163.5	2026/8/13 01:30

【雨】期間内の1時間降水量最大値（8月13日00時～8月14日24時）



順位	都道府県	市町村	地点	観測値	
				mm	年月日 時分(まで)
1	千葉県	千葉市中央区	千葉（チバ）※1	115.0	2026/8/13 18:48
2	千葉県	佐倉市	佐倉（サクラ）※1	97.0	2026/8/13 19:31
3	千葉県	館山市	館山（タテヤマ）※1	94.5	2026/8/13 21:53
4	千葉県	船橋市	船橋（フナバシ）※1	62.0	2026/8/13 18:43
5	千葉県	我孫子市	我孫子（アビコ）※1	61.0	2026/8/13 14:30
6	千葉県	茂原市	茂原（モバラ）	57.0	2026/8/13 21:34
7	千葉県	夷隅郡大多喜町	大多喜（オオタキ）	56.5	2026/8/13 21:24
8	埼玉県	さいたま市桜区	さいたま（サイタマ）	53.0	2026/8/13 15:44
9	栃木県	小山市	小山（オヤマ）	51.0	2026/8/13 12:14
10	広島県	三次市	三次（ミヨシ）※2	50.5	2026/8/13 17:10

※1：観測史上1位の値を更新した地点を示す。※2：これまでの8月の1位の値を更新した地点を示す。

出典：気象庁

気象状況（千葉豪雨のメカニズム）

「令和8年夏を対象とした異常気象分析検討会の結果（気象庁）」を元に作成

○ 8月13日夕方から14日未明にかけて、千葉県で記録的な大雨となり、千葉で24時間降水量367mm、1時間降水量115mmを観測するなど、観測史上1位の値を更新。

○ 房総半島付近では、大気の状態が非常に不安定であったとともに、日中の対流活動に伴う降水による冷気と、東から流入する暖湿気の間で局地的な前線が形成された結果、この前線上で線状降水帯が発生し、記録的な豪雨をもたらした。

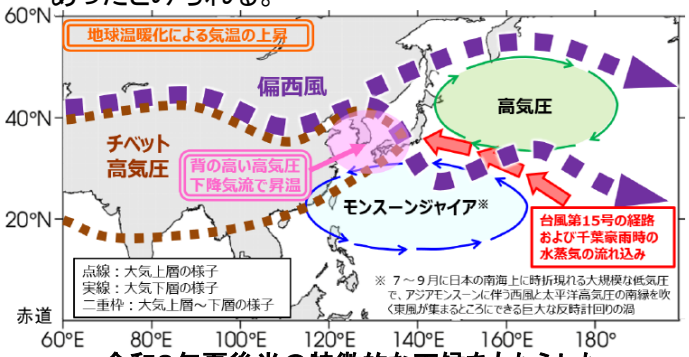
■天候の背景

○ 上空の偏西風が日本付近で大きく蛇行し、日本の東海上では南北2つに分かれて流れた。

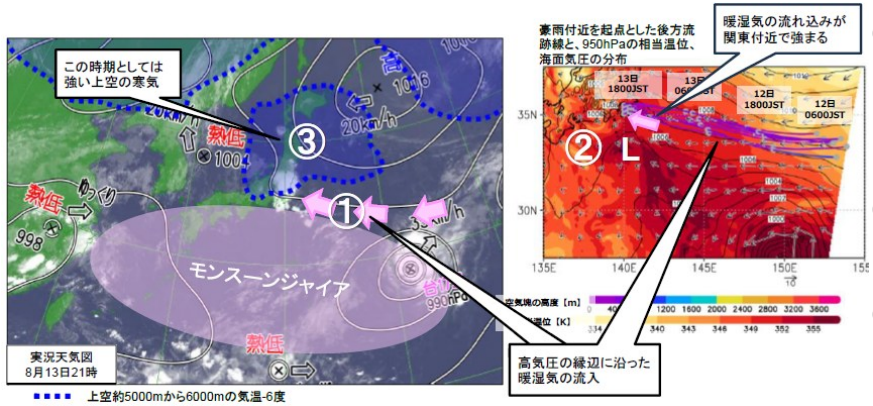
○ これにより、西日本では、偏西風の北への蛇行によって西日本付近に張り出した上層のチベット高気圧に伴う背の高い高気圧に覆われ、下降気流が卓越したことが影響したこと等により、高温・少雨となった。

○ また、令和8年8月千葉豪雨等では、日本の南海上で形成されたモンスーンジャイアと、南に分かれた偏西風によって上層の寒冷渦が日本付近に南下したこと、および北に分かれた偏西風によって強まった日本の東海上の高気圧が寄与した。

○ なお、夏の台風発生数が多かったのは、偏東風波動の活動が活発だったことが一因と考えられ、また、その背景には今年の顕著なエルニーニョ現象があったとみられる。



令和8年夏後半の特徴的な天候をもたらした大気の流れの模式図

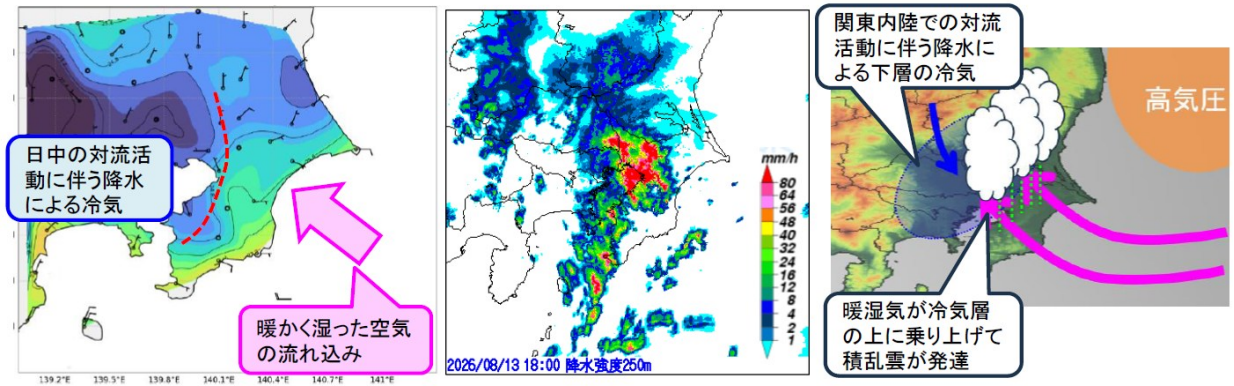


① 千島の東に中心を持つ高気圧と日本の南海上のモンスーンジャイアとの間で気圧傾度が大きくなり、下層の暖湿気が東から関東地方へ流入。

② 房総半島の南には小低気圧があり、その循環に伴って①の暖湿気の流入が関東付近で強化。

③ 上層には強い寒気があり、①の下層暖湿気の影響も加わって、関東地方では大気の状態が非常に不安定となった。

千葉豪雨の要因となった環境場について



千葉豪雨をもたらしたメソ対流システムの発生・発達過程を示す図

関東内陸部では、日中の対流活動に伴う降水によって冷気層が形成・拡大し、その東端では東からの流入する暖湿気との間で徐々にシアーラインが形成（左図）。このシアーライン上で、豪雨をもたらしたメソ対流システム（線状降水帯）が形成（中図）。メソ対流システムは、流入する暖湿気が冷気層に乗り上げることで、積乱雲が次々に発生・発達する構造となっていた（右図）。

■令和8年8月千葉豪雨

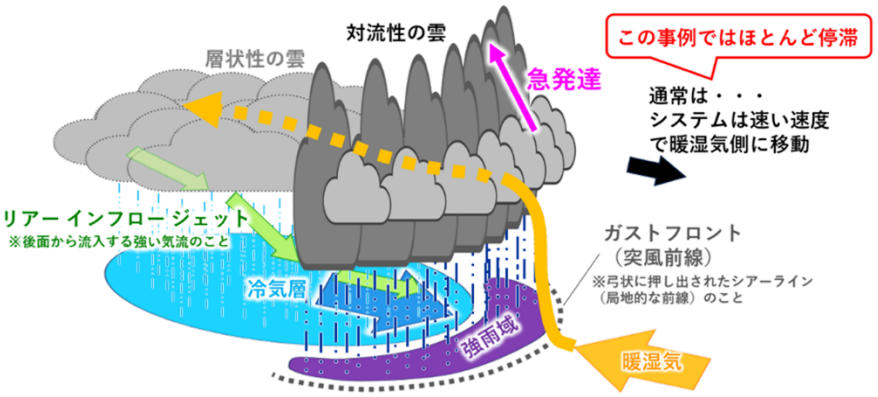
気象状況(豪雨をもたらした「スコールライン型」降水システム)

「令和8年8月千葉豪雨をもたらした線状降水帯の解析結果(速報)(気象庁)」を元に作成

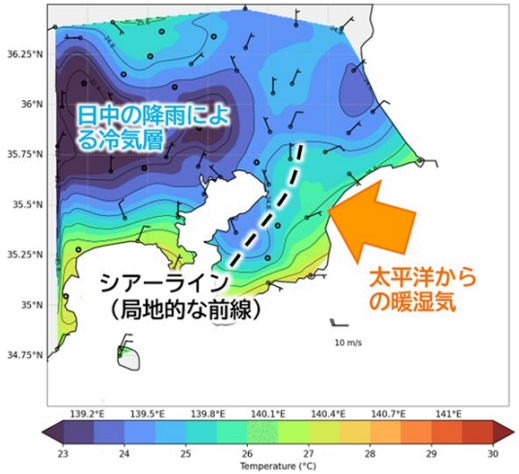
○ 令和8年8月千葉豪雨をもたらした線状降水帯は、通常は移動しながら通過する「スコールライン型」の降水システムが房総半島付近で停滞したことにより発生した。

○ 気象研究所の解析によれば、関東内陸部の冷気層と東から流入した暖湿気が拮抗したことで、降水システムの移動速度が大幅に低下したと考えられる。

○ また、強雨域では積乱雲内部に形成された渦が上昇気流を強化したことが、極めて強い降雨をもたらした一因と考えられる。



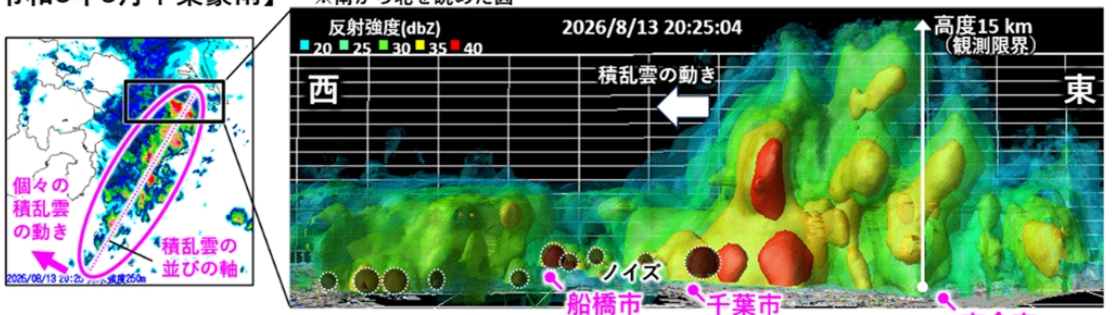
スコールライン型の降水システムの模式図



8月13日16時45分ごろの気温と風向風速の分布

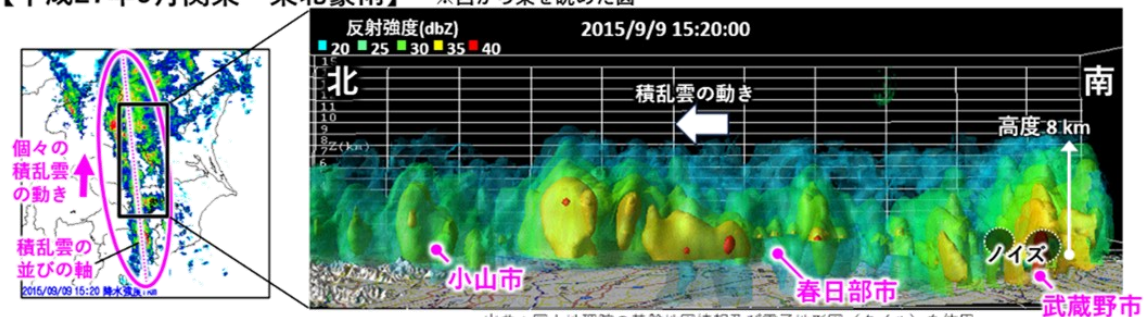
- 昼間の降雨によって、関東内陸部に冷たい空気の塊(冷気層)が広がる。
- その東端の房総半島付近では、太平洋から流れ込む暖かく湿った空気との間に局地的な前線(シアーライン)が形成。
- 暖かく湿った空気が冷気層に乗り上げることにより積乱雲が発達した。

【令和8年8月千葉豪雨】 ※南から北を眺めた図



出典:国土地理院の基盤地図情報及び電子地形図(タイル)を使用

【平成27年9月関東・東北豪雨】 ※西から東を眺めた図



出典:国土地理院の基盤地図情報及び電子地形図(タイル)を使用

線状降水帯の構造(平成27年9月関東・東北豪雨との比較)

(上)令和8年8月千葉豪雨(下)平成27年9月関東・東北豪雨をもたらした線状降水帯の構造

- 左図は気象庁のレーダーで観測された雨雲の水平分布を表し、右図は気象研究所のフェーズドアレイレーダーで観測された雨雲の鉛直構造を表す。
- 関東・東北豪雨では、積乱雲の並びの軸に対して、個々の積乱雲がほぼ平行な方向に移動していたのに対し、千葉豪雨では、ほぼ直交する方向に移動していた点が大きく異なる。また、千葉豪雨では、関東・東北豪雨に比べて積乱雲がより高くまで発達した。

被害状況

■被災状況（人的被害等）

死者・負傷者	死者 13名 負傷者 46名	（令和8年9月9日 12:00 消防庁）
住家被害	全壊 12戸 半壊 2,183戸 一部損壊 273戸 床上浸水 1,054戸 床下浸水 2,736戸	（令和8年9月9日 12:00 消防庁）
停電	最大 約46,980戸（8/13 22:00時点）全て復旧済み	（令和8年9月9日 11:00 経済産業省）
断水	最大 約100戸（千葉県千葉市） 8/19に断水解消済み	（令和8年9月9日 12:00 国土交通省）
被災車両	おおむね3,000台	（国土交通省推計）

■被災状況（インフラ被害）（令和8年9月9日 12:00 国土交通省）

道路	県道等（千葉県）で被災による通行止め（千葉県１区間（法面崩落）） →発災後、圏央道、千葉東金道路、国道16号などで法面崩落、冠水等により通行止めが発生。 → 高速道路・国道は8月17日までに全て規制解除。県道も順次規制解除され、県道1区間で通行止めが継続。 千葉県内の道路上の被災車両は、８月３１日までに全て撤去が完了。（最大約３，１００台）
上下水道	（水道）千葉県（千葉市）において水道管破裂により断水が発生（最大断水戸数約100戸）。8/19に復旧済。 （下水道）処理場：菊間終末処理場（市原市）で浸水により他処理場への汚泥圧送機能停止(水処理機能に影響なし、応急復旧済) ポンプ場：八千代ポンプ場等の3施設で浸水により機能停止(応急復旧済み)
河川	千葉県管理の31河川111箇所で護岸の変状などを確認し、応急対策完了済。
土砂災害	305件（千葉県304件、神奈川県1件）人的被害無し。うち、人家被害に繋がった土砂災害47件。
空港	成田国際空港：6,880名の空港内での滞留者あり（8/14 3:00時点）→8/14 9:00滞留解消
鉄道	最大で５事業者１４路線で運転見合わせ



都川（千葉県千葉市中央区）



土砂災害（千葉県千葉市緑区越智町）



法面崩れ（千葉県千葉市緑区）



路盤流出（土気駅）※事業者提供

被害状況（浸水家屋等）

○ 8月13日からの大雨により、千葉県内で全壊 14棟、半壊2,694棟、一部破損222棟、床上浸水1042棟、床下浸水3070棟が発生※。※千葉県防災危機管理部 令和8年8月千葉豪雨について（第25報）より

八千代市
床上浸水30棟、床下浸水153棟





千葉市
床上浸水　88棟床下浸水395棟



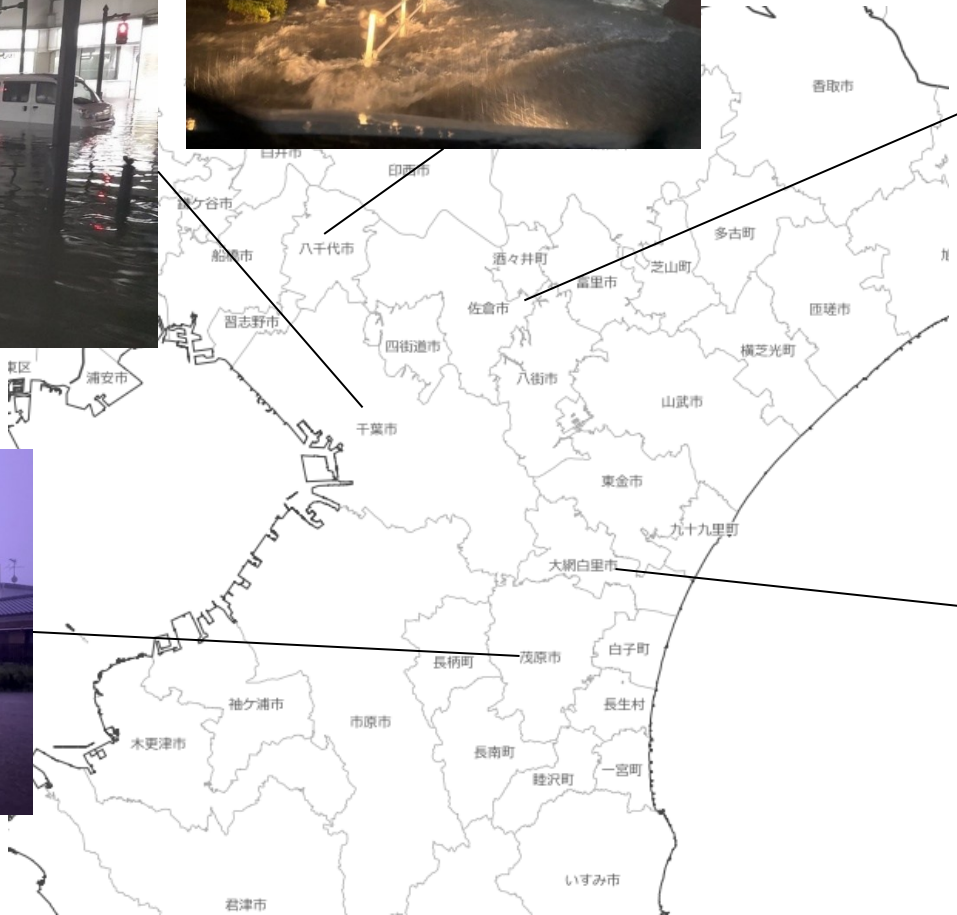
佐倉市
床上浸水39棟、床下浸水127棟



茂原市
床上浸水21棟、床下浸水206棟



大網白里市
床上浸水168棟、床下浸水230棟



被害状況（被災車両）

「令和8年8月千葉豪雨等を踏まえた内水氾濫対策検討会（事務局：内閣府（防災担当））」第1回資料を元に作成

- ○ 記録的な降雨により広範囲で道路が冠水し、多数の車両が浸水・水没し、交通機能にも影響した。
- ○ 関東地方整備局において、千葉市に対し、TEC-FORCEによる被災車両移動の支援やレッカー車最大17台の派遣、仮置き場の提供などを実施。
- ○ 8月18日に設置した、国、県をはじめ関係機関で構成するプロジェクトチームにおいて、被災車両への円滑な対応に向けた取り組みを推進。
- ○ 千葉県内の道路上の被災車両は、8月31日までに全て撤去が完了。（最大約3,100台）

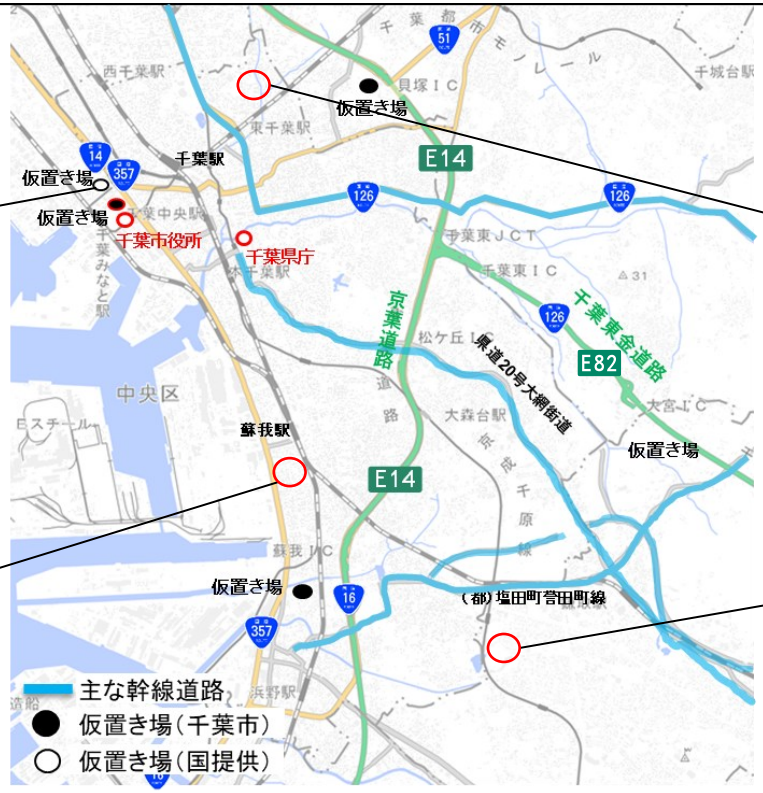
○路肩等から仮置き場への移動



・車両仮置き場の状況
（国提供地：国道357号千葉市役所付近）



・路肩から搬送



○交通阻害車両の路肩への移動
（8月16日～）



・路肩への移動（車両用移動用装置）



・路肩への移動（人力）

被害状況（帰宅困難者）

「令和8年8月千葉豪雨等を踏まえた内水氾濫対策検討会（事務局：内閣府（防災担当））」第1回資料を元に作成

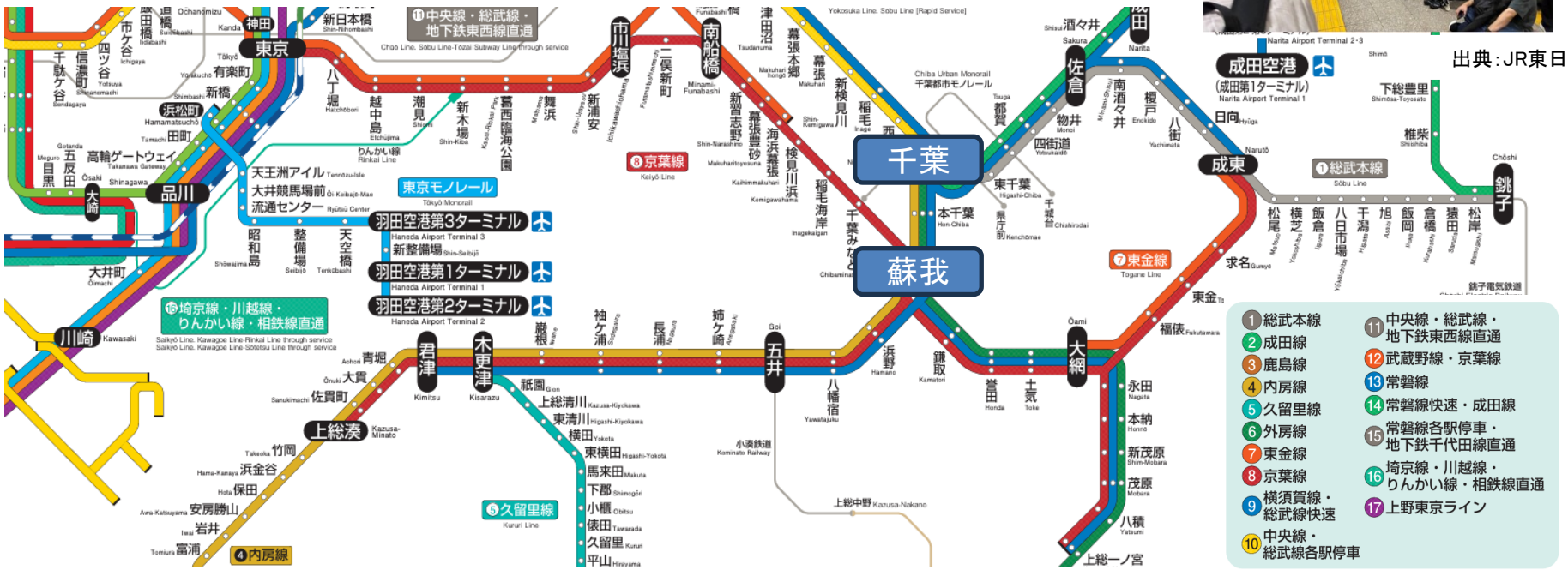
○ 令和8年8月千葉豪雨では、鉄道の運転見合わせ等により、千葉駅や蘇我駅などの主要駅周辺で多数の帰宅困難者が発生。

○ 特に蘇我駅では駅周辺が浸水したことから、約4,000人が帰宅困難者となり、その多くが朝まで駅舎で過ごしたと報道もされている。

【JRの運行状況】
- 京葉線は19:10頃に海浜幕張～蘇我間で運転見合わせ
- 内房線は18:10頃、外房線は17:30頃に運転見合わせ
- 内房線、外房線は22:01頃に当日中の運転再開見込みがないことを周知



出典：JR東日本



出典：JR東日本webサイトに一部加筆

被害状況（マンション等の地下浸水）

「令和8年8月千葉豪雨等を踏まえた内水氾濫対策検討会（事務局：内閣府（防災担当））」第1回資料を元に作成

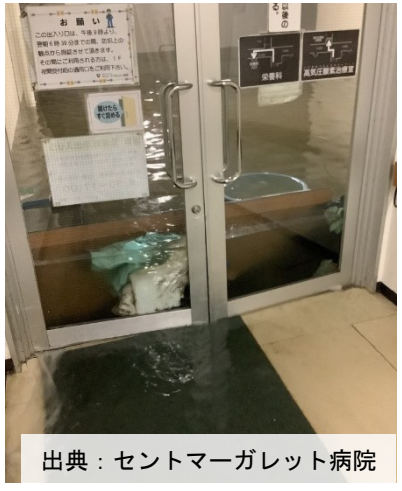
○ マンションの地下に設置された電気設備の浸水による、停電の発生。

○ 千葉市の多数のマンションでは停電に伴う断水、エレベーター停止等が発生。

○ 浸水想定区域外であった千葉大学医学部附属病院において、地下にあった排水管や、ポンプ・電気基板が泥水をかぶって故障し、手術等に支障が生じる等、多数の病院で浸水被害が生じた。

セントマーガレット病院（八千代市）の被害状況

13日	19:30	• 外は90cm～160cm程度まで水量が上昇 • ボイラー冠水 • 揚水ポンプ冠水 • 一部の空調機器冠水 • MRI室、サーバー室浸水継続 • 浸水圧力により霊安室側出入口ドア破損
	23:00	• 浸水止まらず、水量がコンセントに至り、漏電および感電の危険性がある為、地下対応中止
14日	—	• 水道　揚水ポンプ使用不可 • 胃カメラ　中止 • 透析　中止



出典：セントマーガレット病院



出典：セントマーガレット病院

千葉大学医学部附属病院（千葉市）

出典：千葉市　内水氾濫想定データに加筆



千葉大学医学部附属病院
ピット室の浸水

出典：千葉大学

■令和8年8月千葉豪雨

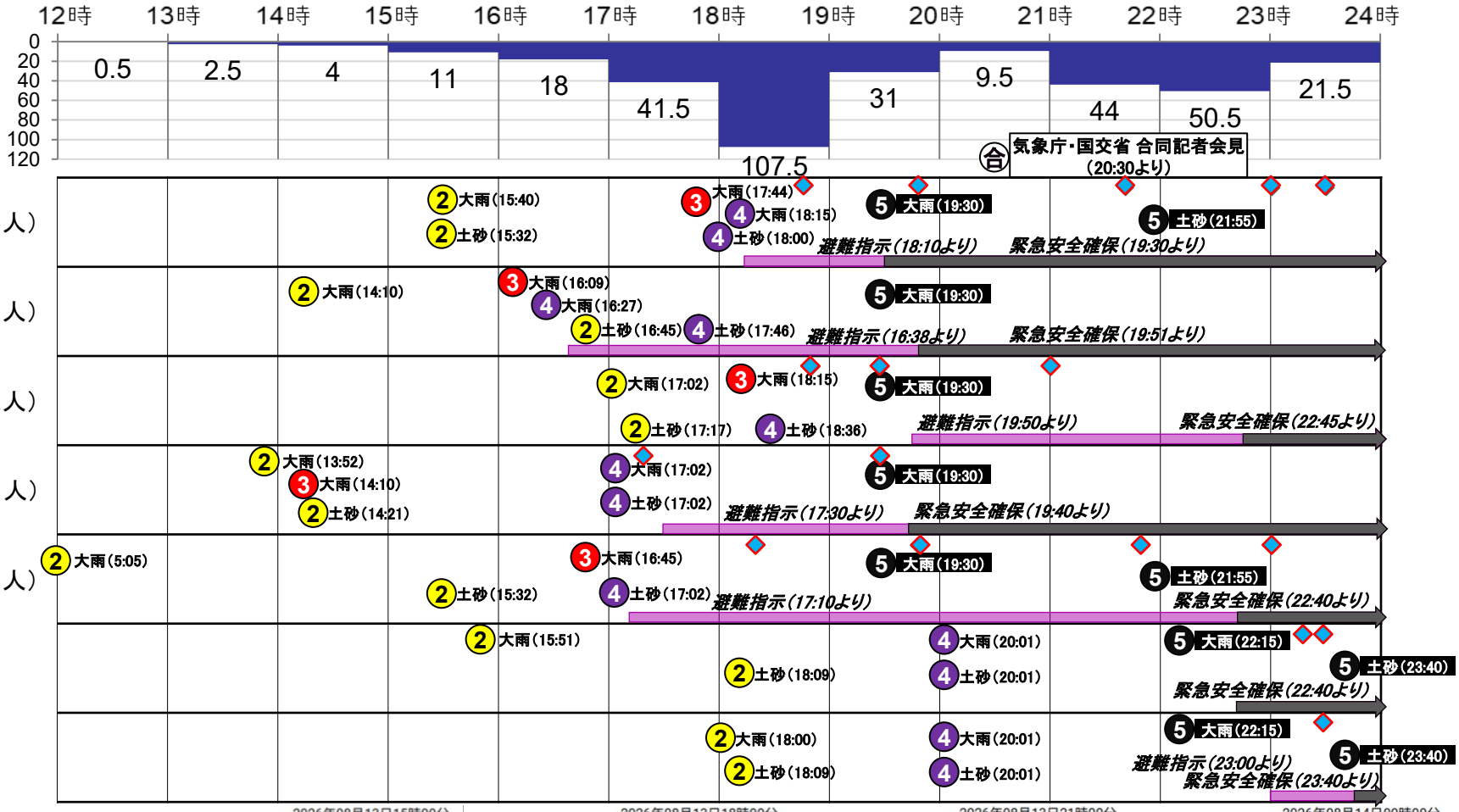
【参考】気象警報、避難指示等の発令状況

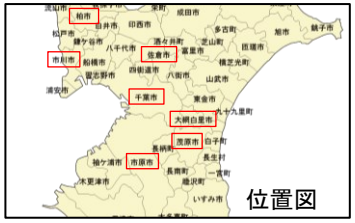
○ 千葉県の各市町村では、急激に雨量が増加した結果、次々と気象警報・注意報が発表された。

② レベル2注意報
③ レベル3警報
④ レベル4危険警報
⑤ レベル5特別警報
◆ 記録的短時間大雨情報

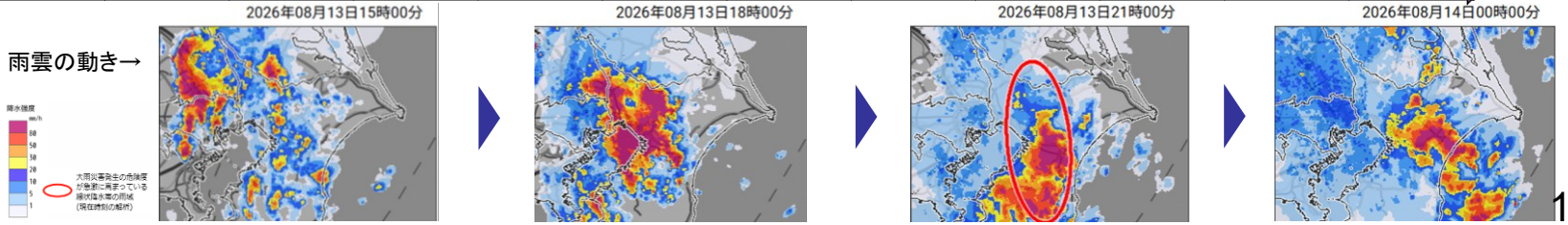
千葉（千葉県）8月13日1時間降水量

銚子気象台HP,千葉県HPより国土交通省作成





雨雲の動き→



被害状況（河川付近の浸水・施設被害）

○ 千葉県付近に線状降水帯が発生し、千葉県内の22の市町でレベル5大雨特別警報が発表された。
○ 千葉県管理の17河川において浸水被害を確認。（浸水解消）31河川111箇所で護岸の変状などを確認。
○ 応急対策を完了済。

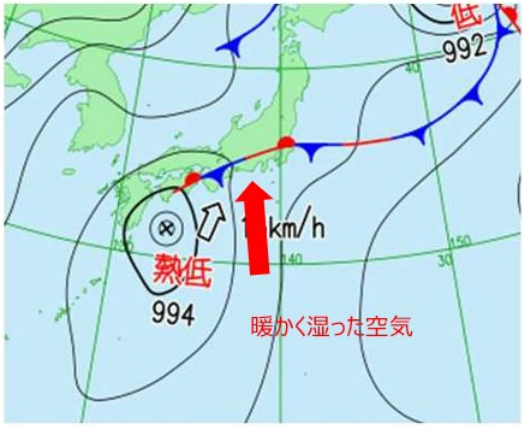


■令和8年9月8日からの大雨（東海地方）

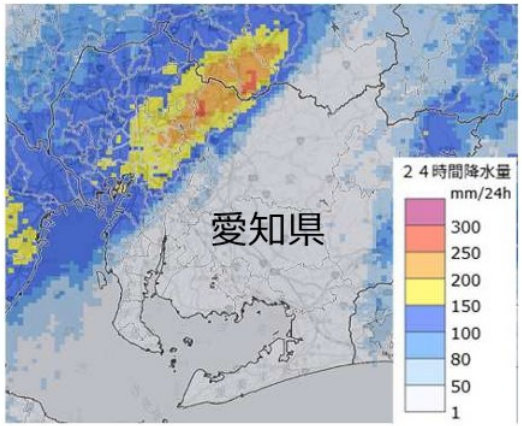
大雨の概要 （令和8年10月20日時点）

- 9月8日は、四国の南にある台風第24号から変わった熱帯低気圧の東側の暖かく湿った空気が本州の南岸付近に停滞した前線に向かって流れ込み、前線の活動が活発になった。愛知県では8日夕方に線状降水帯が発生した。
- 8日16時から18時頃にかけて尾張東部を中心に猛烈な雨が降り、名古屋では16時53分までの1時間に104.5ミリの降水量を観測し1890年の観測開始からの1位を更新した。また、解析雨量では、尾張東部の多いところでは、8日18時までの3時間降水量が約250ミリとなった。
- この大雨により、尾張西部、尾張東部の一部の市町にレベル4大雨危険警報、レベル4土砂災害危険警報を発表した。河川に対しては、矢田川の瀬古基準観測所（名古屋市守山区）で氾濫発生水位に達したため庄内川レベル5氾濫特別警報を発表したほか、愛知県天白川水系天白川レベル4氾濫危険警報などを発表した。

気象の状況等



地上天気図
9月8日18時



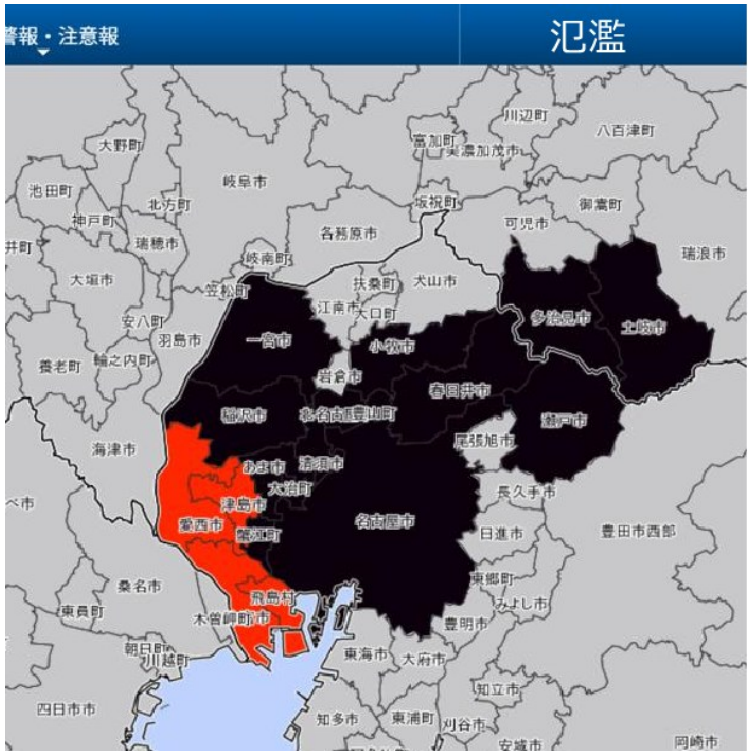
解析雨量による9月8日24時までの24時間降水量

名古屋市における日最大１時間降水量
（1890年の観測開始からの1位を更新）

日最大１時間降水量

地点名	更新した値		前日までの１位の値		統計開始年
	降水量(mm)	起日	降水量(mm)	年月日	
名古屋	104.5	8日	97.0	2000年9月11日	1890年

レベル5氾濫特別警報の発表



気象庁WEBページより

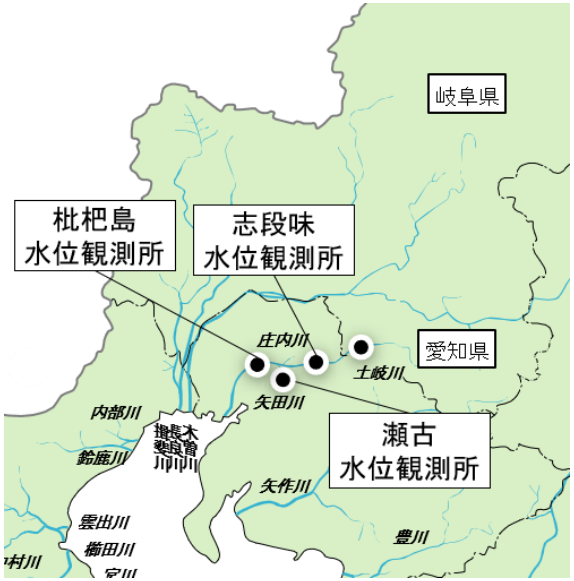
河川の対応状況 （令和8年10月20日時点）

- 庄内川水系矢田川の瀬古水位観測所においては計画高水位を超過し、氾濫発生水位に到達したため、レベル5氾濫特別警報/氾濫発生情報を発表、東海豪雨を超える水位を記録した。
- 庄内川本川においても、志段味水位観測所において、氾濫危険水位を超過し、枇杷島水位観測所においては水防団出動水位を超過した。

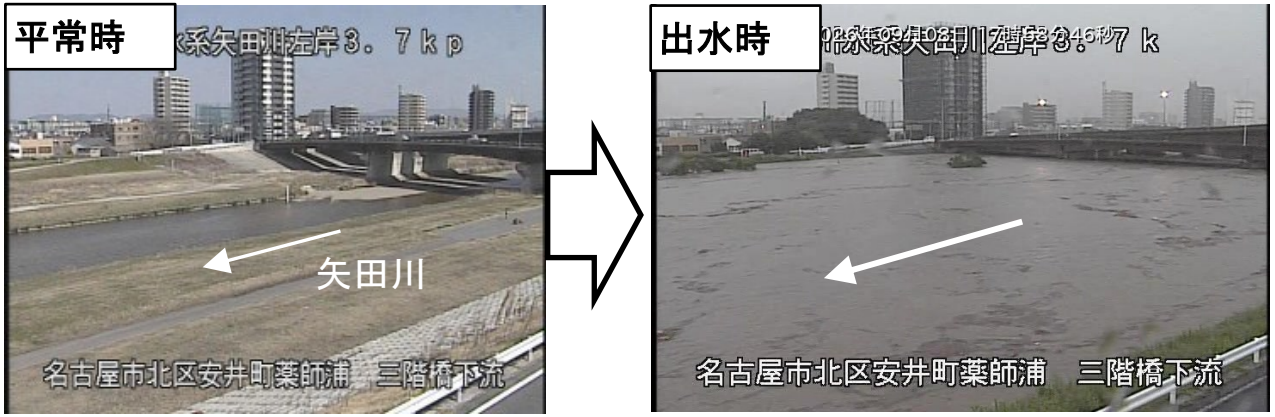
【水位状況】 （単位：m）

水系名	河川名	観測所名	今回 最高水位	水防団 待機水位	氾濫 注意水位	出動水位	避難 判断水位	氾濫 危険水位	計画 高水位	
庄内川	庄内川	志段味	2026/09/08 18:30 6.44	3.40	4.60	5.20	5.90	6.40	7.50	-
		枇杷島	2026/09/08 20:30 7.99	4.60	5.60	6.30	8.50	8.90	9.08	-
	矢田川	瀬古	2026/09/08 18:10 6.35	2.80	3.30	5.00	5.20	5.50	5.71	6.11（氾濫発生水位）

ピーク時 6.35m



■庄内川水系　矢田川　瀬古水位観測所



2026.09.08 18:10

被害状況 （令和8年10月20日時点）

■被災状況（人的被害等）

負傷者	軽傷　38名	（令和8年9月18日　愛知県被害情報　第11報）
住家被害	一部損壊 10戸 床上浸水 396戸　床下浸水 605戸	（令和8年9月18日　愛知県被害情報　第11報）

■被災状況（インフラ被害）

道路	愛知県：損壊２か所 名古屋市：道路冠水196件、道路陥没24件、道路損壊　132件	（令和8年9月18日 愛知県被害情報　第11報） （令和8年10月5日　名古屋市情報）
河川	国：河岸侵食１件、護岸損傷１件 愛知県：護岸損壊９河川 名古屋市：堤防越水２箇所、施設被害　12箇所	（令和8年9月29日 庄内川（土岐川）出水状況について第2報） （令和8年9月18日 愛知県被害情報　第11報） （令和8年10月5日　名古屋市情報）
鉄道	JR及び名古屋鉄道において一部運休 名古屋市営地下鉄において、9/8全線運休	（令和8年9月11日　中部地方整備局災害対策本部報告第2報） （令和8年9月11日　中部地方整備局災害対策本部報告第2報）

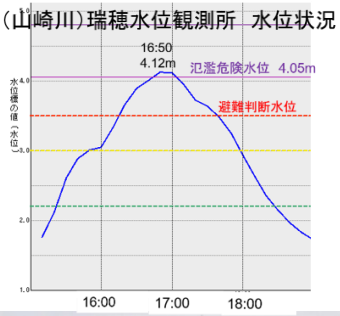
■令和8年9月8日からの大雨（東海地方）

被害状況 （令和8年10月20日時点）

- 令和8年9月8日（火）の大雨により、名古屋市管理河川（山崎川、植田川）において溢水被害が発生。
  （国及び愛知県管理河川における氾濫被害は無し）

山崎川水系山崎川
広路橋付近
浸水範囲：調査中

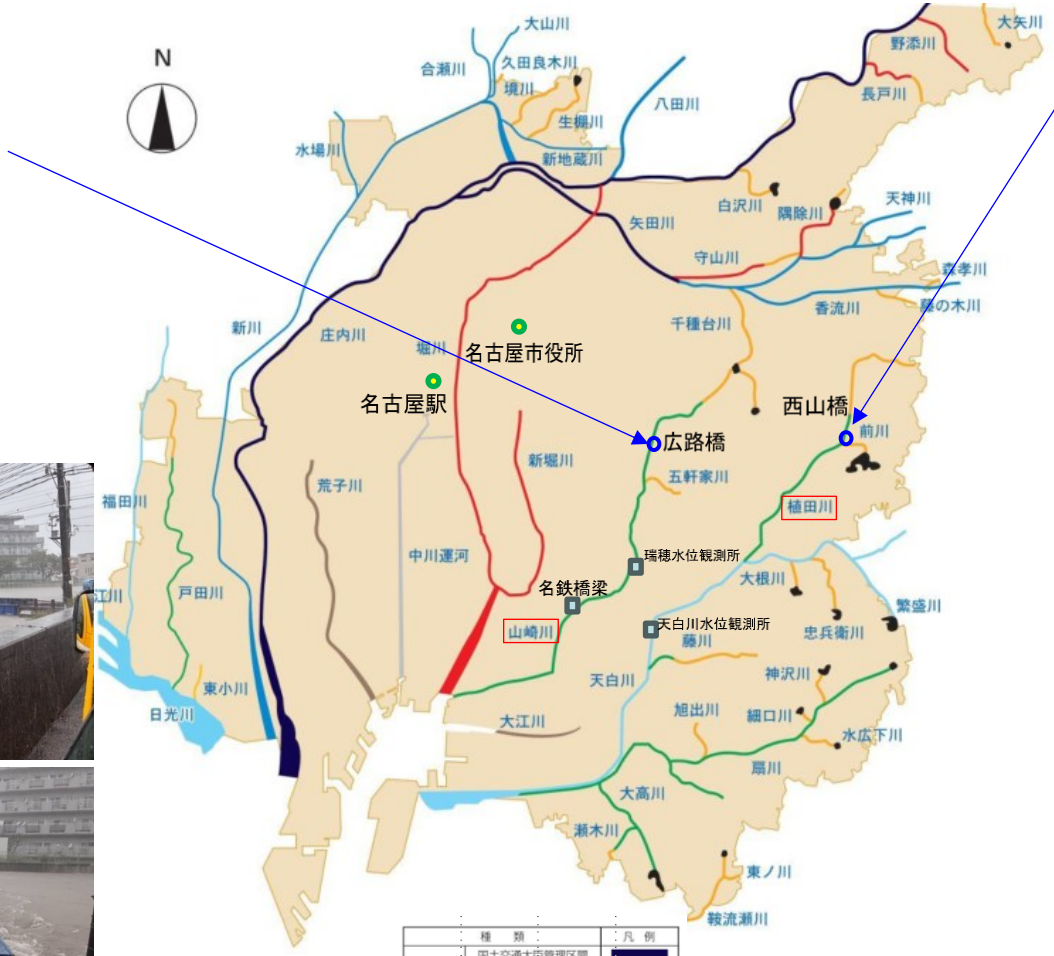
（山崎川）瑞穂水位観測所　水位状況





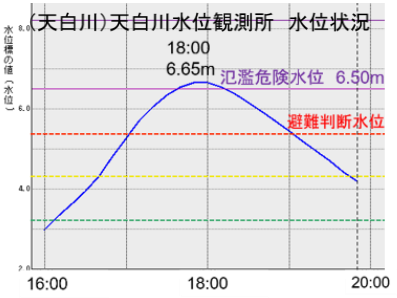


山崎川名鉄橋梁付近



天白川水系植田川
西山橋付近
浸水範囲：調査中

（天白川）天白川水位観測所　水位状況







植田川河川施設損壊